

2021年度事業計画

新島学園短期大学

概要

短大のステークホルダーである学生や保護者が重視している「卒業後の進路を確かで豊かなものにする」という目標は継続して設定・共有していくが、それだけに留まらず、キリスト教主義教育の理念に基づいて、その後の人生をより良く生きるための基盤をつくることのできる二年間、すなわち本学での学生生活が「人生を支える二年間」となれるような教育・支援活動を実践していく。

また、18歳人口の減少と、短期大学進学率の低下という厳しい環境の中で、学生や社会に価値を与えることのできる短期大学となるための新しい学びの形成や、組織力向上、地域・社会との連携強化についても併せて取り組んでいく。そしてこれらのことが学生の成長につながり、それが地域社会や更に広い範囲で認知、評価されることで、新島学園短期大学が短期大学のブランド校としてのポジションを獲得できることを目指していく。

そのため、以下の基本方針に基づいて2021年度の活動を実践していきたい。

<伝統を守る>

1. キリスト教精神を生かしたキャンパスライフ

- ・週1回のチャペルアワーの時間を学生が自己の人生を考える時間として位置づけ、聖書を題材としつつも、学生のこれからの人生と関連付けられる要素を充実させていくことで、学生のキリスト教に対する理解、共感を図っていく。
- ・新島短大のキリスト教教育について、改めて考えるプロジェクトチームを編成し、授業の在り方や、チャペルアワーの位置づけといったことを検討していく。このことによって、学生、教職員がキリスト教による教育を、自分事として捉えられるように図っていく。
- ・授業やチャペルアワーだけでなく、日常のキャンパスライフにおいてキリスト教精神を体感できるようなプログラムを検討し、導入する。
- ・教職員が、新島襄から受け継がれている建学の精神を学ぶ機会を定期的に設定する。
- ・学生に礼拝体験を促すなど地域教会等との連携を高め、キリスト教理解の機会を増やしていく。
- ・前期、後期終了時に学生に対してアンケートを実施し、チャペルアワーなどでのキリスト教との出会いについての感想等を確認し、今後に生かしていく。

2. エンロールメントマネジメント

- ・在学中だけでなく、入学前から卒業後まで、高校生、在学生、卒業生一人一人との関係性を構築し維持していく。
- ・入学前からの関係性構築のため、高等学校との連携をより図っていく。そのため、「キャリア教育研究センター」をつくり、高等学校のキャリア教育を支援していく。本年度の2校に加えて、2021年度に新しく連携を開始する高校数は3校を目標とする。
- ・卒業生との関係性を構築するため、ホームカミングデーを実施するほか、就業上の課題解決、学び直しといったことに対応した取り組みを企画していく。
- ・入試広報とキャリアセンターとの情報共有を図り、入学前から卒業後までの対応強化と状況の発信を図る。
- ・就職先（企業/園など）や編入先（大学）との交流を図り、円滑な意見交換の行なえる関係性を構築していく。
- ・同窓会、父母の会、後援会との連携を図る機会を設け、多面的な支援体制を構築していく。

<伝統を活かす>

3. 新しい学びの形をつくる

- ・実体験と座学を結び付け、学ぶ意欲と学習成果向上に向けて、学びの好循環をつくりだす。またこのことによってキャリアデザイン学科のコースの個性を明確にする。
- ・企業や子ども園等で働くことを、ある程度の期間、体験できるといったプログラムを可能とするため、実習の可能な企業や園等を、それぞれ20先を目標に確保に努める。併せて経済団体等との連携協定締結も積極的に進めていく。
- ・編入希望の学生や、起業を考えている学生向けの体験プログラムを企画していく。
- ・PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）型の授業科目を2022年度のカリキュラムに入れられるよう準備を進める。
- ・ICT環境整備を強化し、with コロナ時代においても教育の継続性を確保するとともに新しい学びへの対応も考えていく。

4. 教職員の充実した働き方

- ・教員の業務を見直し、教育・研究活動、社会貢献活動のための時間を生み出せるよう図っていく。
- ・職員の組織や業務を見直し、効率的な業務遂行と負担の公平化を図っていく。
- ・教員の授業力向上を図るFD活動を前後期に各1回実施し、効果を測定していく。
- ・職員の企画力や経営的視点を養成するSD活動を前後期に各1回実施し、業務改善等に向けた提案を募っていく。

- ・教職員間での相互理解を推進するため、この「教職員の充実した働き方」というテーマに取り組むプロジェクトチームを組織して進めていく。
5. 全国的なブランディング
- ・就職支援体制、編入指導体制をさらに強化し、短期大学としてのトップブランドを目指すような実績を挙げていく。
 - ・就職や四大編入等の実績を広範囲に発信し、知名度を高めていく。そのため、広報スタッフ、学生広報メンバーの育成を強化する。
 - ・新聞などのマスコミや業界誌（紙）に紹介記事が掲載されることを目指し、そのための情報発信も行う。新聞等の掲載件数目標を年間、50回とする。
-

